『水俣学研究』投稿規程・執筆要領

（2011 年 3 月改訂）

Ⅰ　投稿規程

１　論文投稿の原則

本誌に掲載される原稿は、水俣学に関する理論的・実証的研究成果をまとめたものとし、未発表のものを原則とする（投稿中のものは含まない）。投稿は原則として水俣学研究センター（以下、センター）の学内研究員・客員研究員・特別研究員・水俣学研究センターの趣旨に賛同する者とする（以下、会員）。

２　著作権

すべての著作権は、水俣学研究センターに属する。本誌掲載原稿を著者が他の著作などに収録・転用する場合は、文書でセンターに通知すること。

３　原稿の種類

原稿の種類は下記の通りとする。各種原稿とも本文の使用言語は日本語もしくは英語とする。

＜投稿論文原稿＞

研 究 論 文　理論的・実証的研究における分析視点、研究方法などにオリジナリティを有する論文。

研究ノート　素材の新しさを含む理論的・実証的研究の中間報告、あるいは新しい手法の提案などを有する論文。

フォーラム　水俣学研究に掲載された研究論文、研究ノートに対する批判と討論および水俣学の発展に資する調査資料や意見・報告などを有する論文。英文による投稿の場合は、国際フォーラムとして扱う。

書　　評　水俣学に関する図書の批評と紹介。

エ ッ セ イ　自由な形式での水俣学に関する問題提起や情報の提供、国内外の研究動向や政策動向の批評を含んだ論文。

＜依頼原稿＞

特 集 論 文　特定のテーマの下での論文。特集は水俣学研究編集委員会（以下、委員会）で企画し、最も適任と思われる研究者に執筆を依頼する。

資料紹介/復刻　水俣学に関する史料・資料の提供。これらには、委員会から研究者に解題の執筆依頼に加えて会員からの投稿を受け付ける。

国際フォーラム　国内外の研究事情や水俣学に関する英語論文。海外の研究者および国内の研究者への執筆依頼に加えて会員からの投稿も受け付ける。

＜その他＞

研究会報告　センターの研究会の内容をまとめた成果。

活 動 報 告　センターの研究調査活動・講座活動・教育活動・研究業績などの報告。

４　原稿の採否

研究論文を除く投稿論文・依頼原稿は委員会が掲載の採否を審査する。審査結果は、掲載可となった著者に委員会から書面で連絡を行う。委員会は、必要に応じて外部の査読者を指定して意見を求めることができる。

５　原稿の長さ

原稿の長さには、論文表題・著者名・和文要旨・キーワード・注・文献・英文要旨のほかに図表も含むものとする。長さの制限は下表の通りとする。

原稿種類	文字数
研究論文・特集論文	20, 000
研究ノート	16, 000
フォーラム・ 国際フォーラム	18, 000
書評 ・ 資料紹介/復刻	12, 000
エッセイ	10, 000

６　論文の投稿

投稿論文の原稿は、投稿申込書（様式１）とともにセンター宛（奥付参照）に郵便小包・宅配便で送付すること。送付部数は２部とする。また、原稿（図表含む）をＣＤ−Ｒ等の磁気媒体に収め、原稿に同封されたい。

なお、図表を伴わない投稿論文に限り電子メール（minamata@kumagaku.ac.jp）での投稿が可能である。この場合、投稿申込書および原稿をそれぞれ別ファイルとして電子メールに添付すること。添付ファイルには、著者名を識別できるファイル名を付すとともに拡張子を必ずつけること。

７　校正

原稿に対して著者は校正を行う責任を有している。校正時には誤字・誤記以外の修正は原則として認めない。研究論文を除く原稿の著者校正は、初校までとし期限までにセンターに返却すること。再校は委員会が行う。

８　原稿の返却

掲載された原稿・不掲載の原稿に関わらず、原稿・図表・電子媒体は返却しない。

９　別刷

別刷は 30 部を著者に提供する。著者が印刷・製本・送料を実費負担すれば作成することができる。その場合は、投稿申込書に希望部数を明記しておくこと。

10　掲載順の決定

掲載が決定した論文の掲載号は、原稿種類ごとに委員会が決定する。

Ⅱ　執筆要領

１　原稿出力のスタイル

原稿は、Ａ４の用紙に 40 字×35 行とし、天地各 35 ㎜、左右各 30 ㎜の余白をとり、10 ポイント活字で、通し頁番号を頁中央下にふり印刷すること。英文要旨はこの限りではないが十分な行間をとること。

２　文章表現・綴りなど

・文章は、とくに特別な場合を除き、常用漢字・新かなづかい・新送り仮名を用い、である調で書く。

・副詞は、なるべくひらがなで書く。動植物名は慣用的使用法による。

・数字は、熟語など特別な場合を除きアラビア数字を用いる。ただし、「兆・億・万」などの漢字を使用してもよい。分数は、1/2 とせずに 2 分の 1 と書く。

・年号は、原則として西暦を用いる。例：2011 年。

・度量衡の単位は、原則として記号を用いることとする。例：㎞、㎏、㎡。

・句読点は、「。」「、」を用いる。

・数字および欧文文字は、一字で単独に用いる場合以外は、半角数字・文字を用いる。

・数式は、２行分とり、文字の大小、書体を区別する。

３　原稿のまとめ方

原稿は、論文表題、著者名、勤務先・所属（大学の場合は学部あるいは大学院研究科まで記載）、和文要旨とキーワード、本文、注、文献、英文要旨、図表の順にまとめる。謝辞、研究費、発表集会名など入れる場合は、本文末尾に一行あけて記すことができる。

４　表題・著者名など

・原稿には、和文・英文の表題および著者名・ローマ字表記をつける。

・英文表題は、前置詞・冠詞を除いてキャピタライズを施す。著者名のローマ字表記は、名・姓の順とし、その間にカンマを付けない。

・著者が複数にわたる場合は「*」「**」の記号を付して本文末尾の所属欄と対応させる。

・書評の表題については、以下の記載事項ならびに記載順序とする。著者、編者、訳者名、『書名』出版社名、総ページ数、価格（書籍に明記されている場合：税別）とする。著者名～出版社名の書式は、執筆要領「８文献の表記法」を準用する。

５　要旨・キーワード

・研究論文の原稿のみ、本文の前に論文全体の和文要旨（600 字以内）およびキーワード、論文末尾に英文要旨（650 ワーズ以内）および英文キーワードを必ずつける。その他の原稿は、和文要旨・英文要旨は必要ないが

・キーワードは５語以内とする。キーワードは、その論文のテーマ、フィールド、目的、方法、結果などを過不足なく表現するものを選定する。ただし、検索されることを考慮した一般性を備えたものとすること。並べ方は、一般性のあるものから個別的なものへと配列すること。

６　章節項の構成

・研究論文、研究ノート、特集論文の本文は、章および節以下に区切る。章にはローマ数字「Ｉ」、節にはアラビア数字とピリオド「１.」、項は片括弧でアラビア数字「１)」を用いる。なお、章・節名はゴシック体とする。

７　注記

・原稿には、注記をつけることができる。

・注記は章ごとでなく論文の本文が完結した直後に 2 行あけ「注」として一括して記す。

・各注記は、片括弧を付けた番号で区別し、その番号は論文全体の通し番号とする。この番号を本文中の文章の該当箇所に右肩一字分とって書く。複数の文献を列挙する場合では連番の間に「,」（カンマ）を付けて並べる。

例：明らかになった[1)]、明らかとなった[1), 2)]。

８　文献

・本文ならびに注記、図表の中に使用したもの以外の文献は、すべて論文末（注の後）に「文献」として一括して表示する。
・文献は、日本語の文献を著者名の五十音順、アルファベット使用する言語の文献をアルファベット順に配列する。
・日本語文献の文末は「。」、欧語の文献の文末は「.」（ピリオド）とする。
・共著・偏・訳者などが２名以下ならば全員の氏名を表記するものとし、２名以上の場合は最初の２名の氏名のみ表記し、後は「ほか」、「et.al」（欧語文献の場合）とする。
・論文末の文献表記は次に示す要領によるものとする。

＜日本語の文献＞

単行本　原田正純『水俣病』岩波新書、1972。

雑　誌　原田正純ほか「カネミ油症患者の現状-40 年目の健康調査」『社会関係研究』16-1、2011、pp. 1-53。

編　書　羽江忠彦ほか「水俣病問題をめぐる子ども市民の意識とおとな市民意識の変遷」原田正純・花田昌宣編『水俣学研究序説』藤原書店、2004、pp. 241-269。

＜翻訳文献＞

単行本　レヴィ・ストロース著、川田順造訳『悲しき熱帯』Ⅰ、中央公論新社、2001。

雑　誌　Toal, G.,‘Critical geopolitics’(Toal, G. ed., *Critical geopolitics: the politics of writing global space*, University of Minnesota Presss, 1996), pp. 152-174.［トール、成瀬厚訳「批判地政学」『現代思想』27-13, 1999, pp. 232-247］

＜欧語の文献＞

単行本　Masazumi H., *Minamata disease*, translation edited by Timothy S. George, Kumamoto Nichinichi Shinbun Culture and Information Center, 2004.

雑　誌　Harada, M. et al, ‘Mercury contamination in human hair at Indian reserves in Canada’. *Kumamoto Medical Journal*, 30, 1977, pp57-64.

編　書　Masazumi H., ‘The global lessons of Minamata disease: An introduction to Minamata studies’ (Takahashi, M. ed., *Taking life and death seriously bioethics from Japan*, Elsevier, 2005), pp. 299-335.

10　図表類の作成

・図表類は、必要最小限なものに限り、本文原稿とは別に１枚１葉ずつ作成すること。カラー図版、パワーポイント図版は原則として掲載できない。写真は図として取り扱う。

・図および表には、「第３図」、「第２表」というように、それぞれ通し番号を本文原稿の挿入箇所に赤字で指定する。

・図表のタイトルは、図は下部、表は上部に書く。出典・注記などは、図の場合は図のタイトルの下に、表の場合は表の下に、注記、出典の順に片括弧で表記すること。注・出典の表記は左詰めで記載する。出典の表記は、著者名『書籍名』発行年を記すこと。例：注）～は～を意味する、出典）農林水産省統計情報部「第８次漁業センサス」1988より作成。

・写真・図版を他の文献から引用、転載する場合は、著者自身が事前に著作権者から許可を得ること。本誌はその責を負わない。

・表の単位は、タイトル末尾の右詰めの位置に（　）で示す。例：(単位：%)。複数の単位を併用する場合は表本体の各項目に単位を明記する。

・表は、特に過大なものとならないように注意すること。印刷された表は、縦罫については両端の罫を除去し、中間の罫は縦罫をできる限り付けないやり方で作成すること。

例：

年	全国	首都圏	熊本県
1959			
1960			
1961			